



学校図書館ボランティア ハンドブック

～ 子どもと本の架け橋に ～



神奈川県教育委員会



はじめに

子どもたちにとって学校図書館は、読書をとおして様々な知識を吸収するとともに、豊かな感性を育む大切な場所です。

「かながわ読書のススメ～第五次神奈川県子ども読書活動推進計画～（令和6年3月策定）」の中でも、「学校図書館の利活用の促進」を取組の1つとして取り上げ、学校図書館を学校における学習活動や読書活動の拠点として位置づけています。

そこで、令和3年3月に作成した「学校図書館ボランティアハンドブック」を改訂し、学校図書館ボランティアの皆さんに子どもと本とをつなぐ架け橋として、さらに多くの支援をお願いしたいと考えています。

本書は、学校図書館ボランティアの役割や心得、具体的な活動事例を紹介するなど、これから学校図書館で活動を始めようとする方、あるいは、始めたばかりの方のための入門書となっています。

また、今回の改訂では、各学校の新たな取組事例の掲載とともに、参考として、「子どもの読書活動をめぐる動き」について掲載しました。

学校図書館は、未来を担う子どもたちのため、それぞれの学校で多くの方々の熱意と工夫のもとに運営されています。学校図書館ボランティアとしての第一歩を踏み出すにあたり、本書をご活用いただければ幸いです。

令和8年3月

◆ も く じ ◆

はじめに

- ❶ あなたの力を学校で活かしてみませんか？……………1
- ❷ 学校図書館の機能ってどんなこと？……………4
- ❸ 学校図書館ボランティアの心得ってどんなこと？……………5
- ❹ 学校図書館ボランティアの活動内容は？……………7
- ❺ 本の分類と配架の仕組みはどうなっているの？……………9
- ❻ 本の修理はどのようにするの？……………11
- ❼ 読み聞かせをはじめの方へ……………13
- ❽ 事例紹介……………17
- ❾ 子ども読書活動をめぐる動き……………23
- ❿ 語句の解説(本文中の*を付した用語)……………26
- ⓫ 参考資料……………27

①あなたの力を学校で活かしてみませんか？

自らの人生をより有意義なものにするために、多くの方が様々なボランティア活動を行っています。

学校においても、多くのボランティアの方々に支援をいただきながら、魅力ある学習環境づくりに努めており、学校図書館ボランティアもその一役を担っています。

子どもたちの成長にとって、読書活動は言葉を学び、豊かな感性や表現力、考える力を育み、創造力を豊かにするうえで、欠くことのできないものです。そして、学校図書館は主体的な読書活動の場所として、また、学びを深める場所や安心できる居場所として、子どもたちの育ちを支える重要な機能があります。

学校の先生たちや地域の仲間たちと力を合わせ、学校図書館の充実を図り、将来の担い手である子どもたちに読書の素晴らしさを伝えてみませんか。



「地域学校協働活動」と「社会に開かれた教育課程」

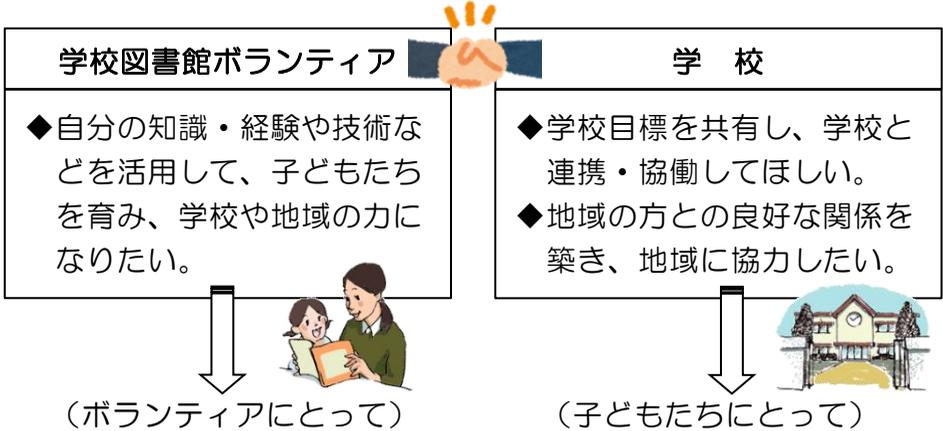
地域と学校とが相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な活動である「地域学校協働活動」は、幅広い地域住民等の参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えています。

学習指導要領には、「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という目標を学校と社会が共有し、連携・協働しながら、子どもたちを育む「社会に開かれた教育課程」の理念が示されています。

「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、「地域学校協働活動」がますます重要になっています。

【 学校図書館ボランティアと学校との連携・協働 】

学校図書館ボランティアの活動は、「地域学校協働活動」の1つであり、「社会に開かれた教育課程」の実現につながるものです。



- ◆自分の知識・経験や技術などを役立てることで、社会に貢献している充実感を得て、生きがいを感じることができます。

- ◆学習を支援する活動をおして、子どもたちからも多くのことを学ぶことができます。

- ◆学校での教育活動や子どもたちの様子が分かり、新たな学校図書館づくりの担い手として、学校の活性化に貢献することができます。

- ◆子どもたちの成長する姿を身近に感じることができます。

- ◆読書環境が充実するだけでなく、ボランティアの専門的な知識・経験や技術にふれることにより、学習意欲が高まり、「生きる力」を身につけることにつながります。

- ◆地域のボランティアに接することで、ボランティア活動に関心をもち、ボランティア活動に参加するきっかけとなったり、地域の一員としての自覚が芽生えたりします。



①あなたの力を学校で活かしてみませんか？

【 ボランティアの4つの原則 】

ボランティアには、大切な4つの原則があります。

○ 自発性

強制や義務で行うものではありません。自らの考えで進んで行う活動です。

○ 公共性

自分や特定の人のためのものではありません。地域や社会全体のために行う活動です。

○ 無償性

収入を目的とするものではありません。自らの時間や能力を無償で提供する活動です。（活動に必要な経費は受け取るという有償ボランティアの考え方もあります）

○ 先駆性

考える力と行動力が求められ、社会をリードする活動です。

ボランティアをする側も受け入れる側も、だれもが気持ちよく活動できることが大切です。



②学校図書館の機能ってどんなこと？

学校図書館は、「読書センター」機能、「学習センター」機能、「情報センター」機能の3つの機能をもっています。

1 「読書センター」機能

- ◆子どもたちが読書に親しむきっかけをつくり、世の中の様々な出来事に興味・関心を持たせる。
- ◆読書に関するアドバイスを行う。
- ◆学校図書館でのマナーや本の扱い方を教える。



2 「学習センター」機能

- ◆調べ学習や探究学習の場を提供する。
- ◆授業に必要な資料や情報を提供する。
- ◆授業で扱われた作品や作者に関する資料を提供する。

3 「情報センター」機能

- ◆情報活用能力*を育成する。
- ◆学校行事や地域行事に関する情報を提供する。
- ◆公立図書館や博物館、美術館、文学館などの社会教育施設や他校の学校図書館と連携し、多様な情報を提供する。

これら3つの機能を十分に発揮することで、学校図書館は「学校教育の中核」としての役割を果たすよう期待されています。

上記の3つの機能以外にも、子どもたちの「心の居場所」としての機能もあります。学校図書館は、子どもたちが1人で過ごしたり、様々な人たちとの関わりをもつことができたりする場でもあります。また、先生たちの教材研究などを支える「教員サポート」の機能もあります。学校図書館は、先生たちが研究したり授業準備したりする場でもあります。

③学校図書館ボランティアの心得ってどんなこと？

(1) 学校図書館ボランティアの役割について

学校図書館は、学校の教育方針のもと、司書教諭*による経営や指導面と学校司書*によるサービスや技術面が互いに連携しながら運営されています。そのため、ボランティアの活動は、その補助が中心となります。必ず司書教諭や学校司書と次のことを確認しながら進めていきましょう。

- ◆学校図書館の運営方針や特色、子どもたちの様子について
- ◆読書活動のねらいについて
- ◆活動にあたって配慮すべきことについて
- ◆活動内容と進め方について

(2) 活動するにあたって

- ◆子どもの人権や個人差に配慮しましょう。
 - ・適切な言葉をつかい、公平に接する必要があります。もちろん体罰は法律で禁止されています。
- ◆子どもや先生のプライバシーを守りましょう。
 - ・活動中に知り得た情報（例：利用中・貸出し中の本のタイトル、先生から叱られたこと、怪我や病気のこと等）を、外部に口外することやSNSで発信することはやめましょう。
 - ・広報用や情報共有のために学校内を撮影する場合は、学校に許可をとりましょう。
- ◆活動のふりかえりをしましょう。
 - ・ボランティア同士で、効果的な活動や子どもたちの様子などについて情報を交換し、学ぶ姿勢をもちながら活動しましょう。
 - ・ボランティア日誌を作り、その日の活動内容、参加人数、他のボランティアへの申し送り等を記入しましょう。



- ◆子どもの安全に配慮した活動を心がけましょう。
 - ・子どもが怪我や事故にあった場合は、速やかに近くの先生を呼び、対応することが大切です。司書教諭や学校司書にも報告しましょう。
- ◆政治や宗教に関しては、中立の立場が求められます。
- ◆営利目的の活動は認められません。
- ◆著作権に配慮しましょう。
 - ・POPや掲示物等に既存のキャラクターを使用する時や、市販されている絵本を大型絵本や大型紙芝居等にするときは、著作権者の許諾を得る必要があります。

著作権について詳しく知りたい方はP27参照

(3) 子どもたちを理解するにあたって

- ◆子どもたちとのコミュニケーションを大切にしましょう。
- ◆子どもたちとの出会いを大切にしましょう。
- ◆あせらず、ゆっくり子どもたちを理解するよう努めましょう。
- ◆子どもたちの様子、周りの状況等に気を配りましょう。

(4) その他

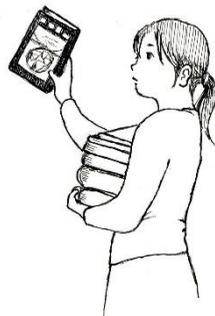
- ◆学校に訪問する際は事前に連絡を入れましょう。
- ◆学校では、子どもたちの安全確保を最優先に教育活動を行っています。訪問者名簿の記入、名札の着用、職員室や事務室へのあいさつをしましょう。
- ◆約束や決められた時間は必ず守りましょう。
- ◆もしもの事故などに備え、保険に加入する場合があります。担当の先生に相談しましょう。

④学校図書館ボランティアの活動内容は？

ボランティアの活動内容は、学校の状況によって様々ですが、主な活動内容は「読書環境の整備」と「読書活動の実践」の2つに大別されます。

(1) 読書環境の整備

- ◆書架や部屋の掃除
- ◆本の配架（P9～10参照）
- ◆新着本の装備
- ◆本の修理（P11～12参照）
- ◆学校行事や季節に合わせた壁面飾り
- ◆話題の本や新着本のコーナーなどの設置
- ◆読書案内のパンフレットやポスターの作成
- ◆本の受入や除籍作業の補助



(2) 読書活動の実践

- ◆読み聞かせ（P13～16参照）
- ◆紙芝居
- ◆素話*
- ◆ブックトーク*
- ◆朗読
- ◆図書委員会等との連携による、子どもたちの自主的な読書活動の支援



【 ある小学校の学校図書館ボランティアの活動例 】

ボランティアは次の活動を複数で行ったり、交替して行ったりしながら、都合のよい時間帯に無理なく活動しています。

子どもの活動	時程	ボランティアの活動
朝の時間	8:20	朝の読み聞かせ係（朝の時間） クラス等に入っでの読み聞かせ
授業時間	8:40	環境整備係（授業利用のない時間） 館内の清掃、書架の本の整備 破損した本の修理、新着本への装備
中休み	10:20	季節に合わせた掲示物の作成や展示 話題の本や新着本のコーナー作り
授業時間	10:40	読書案内のパンフレットやポスター作成 司書の補助 司書がない場合、授業で使う本の準備
昼休み	12:40	カウンター補助係（中・昼休み） 司書がない場合、本の貸出し・返却の補助
授業時間	13:10	
下校	15:00	イベント係（昼休みなど不定期） 季節のお楽しみ会として、読み聞かせ・紙芝居・素話・ペープサート※・パネルシアター※・人形劇などの上演
ボランティア日誌を作り、活動内容等を記入 （ P 5 （ 2 ） 「活動するにあたって」参照 ）		

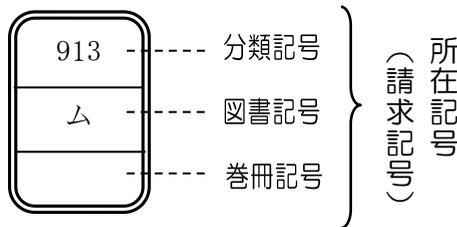
⑤本の分類と配架の仕組みはどうなっているの？

子どもたちが簡単に本を探ることができるようにするためには、学校図書館の本がいつも正しい場所に置いてあることが大切です。

学校図書館の本の並べ方にはルールがあります。そのルールを理解して、子どもたちが使いやすい学校図書館にしましょう。

(1) 本の分類

学校図書館の本の背表紙には下記のようなラベルが貼ってあります。ラベルには所在記号（請求記号）が書かれています。



[1 段目] 分類記号といい、本の内容によって「日本十進分類法（NDC）」に基づいて分類しています。

[2 段目] 図書記号といい、著者や書名の最初の文字を記載しています。

[3 段目] 巻冊記号といい、巻数などを記載しますが、記載しない場合もあります。

* 図書記号と巻冊記号を一緒に記載して、ラベルを2段にしている学校図書館もあります。

蔵書点検のお手伝いを始めて3年経ちました。
不明本もなくなり、スッキリ綺麗に配架され、
子どもたちにとって快適な図書館作りに貢献できていることにやりがいを感じています。

(中学校 ボランティアの声)



(例) 椋鳩十^{むくはとしゅう}の作品「大造じいさんとガン」の場合

*分類記号は**913**になります。

0	総記	5	技術・工学	90	文学	95	フランス文学	910	日本文学	915	日記・書簡・紀行
1	哲学・宗教	6	産業	91	日本文学	96	スペイン文学	911	詩歌	916	記録
2	歴史・地理	7	芸術	92	中国・東洋文学	97	イタリア文学	912	戯曲	917	箴言・寸言
3	社会科学	8	言語	93	英米文学	98	ロシア・ソヴィエト文学	913	小説・物語	918	作品集
4	自然科学	9	文学	94	ドイツ文学	99	その他の諸文学	914	評論・エッセイ	919	漢詩文・日本漢文学

(第1次区分) 10区分 (第2次区分) 100区分 (第3次区分) 1000区分

*図書記号は、著者である椋鳩十の頭文字をとって「ム」になります。

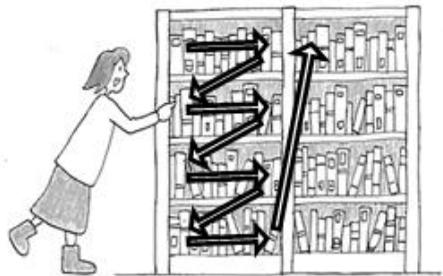
*本の分類の仕方には、学校によって違いがあります。学校のルールを確認しましょう。

(2) 本の配架

◆図書館の本を書架に並べるとを配架といいます。本は分類記号順に左から右に、上から下に並びます。

◆同じ分類記号の場合は、図書記号の五十音順に、同じ図書記号の場合には巻冊記号順に並びます。

◆子どもたちが使いやすいように、新着本コーナーや、季節、行事のテーマ展示をするなど、工夫している学校もあります。



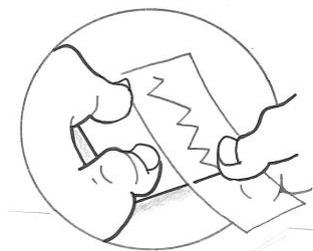
*図書館システム*を活用して、本を管理している学校もあります。

⑥本の修理はどのようにするの？

子どもたちが本に親しむためには、本の修理もとても大切な活動です。破損した部分を見つけたら、早いうちに修理をしましょう。

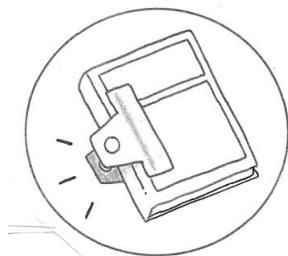
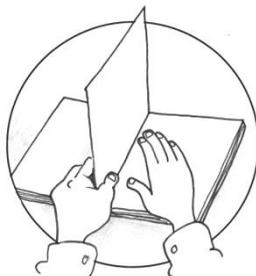
(1) 破れたページの修理

- ①破れた部分の断面に、水糊か水でうすめた木工ボンドを筆で塗り、貼り合わせる。（破れが小さい場合は、②の補修用テープを貼るのみ）
- ②両側（破れた部分の表と裏）から、補修用テープで貼り合わせる。



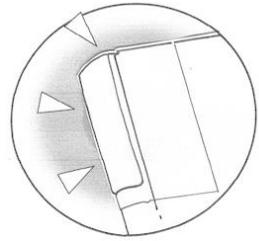
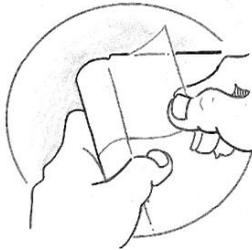
(2) はずれたページの修理

- ①はずれたページの接合部分に、水糊か水でうすめた木工ボンドを筆で少なめに塗る。
- ②ページがずれないように、本の奥にしっかり差し込み、丁寧に貼り合わせる。
- ③本を閉じ、クリップや輪ゴムで固定し、糊を乾かす。



(3) はがれた背表紙の修理

- ①はがれた部分に、木工ボンドを塗り、貼り付ける。
(破れが小さい場合は、②の補修用テープを貼るのみ)
- ②補修用テープを適当な大きさに切り、破損部分をくるむように貼り付ける。
- ③背表紙がなくなってしまった場合は、厚紙をたしてから、補修用テープでくるんで貼り付ける。



(4) 色あせした背文字の修復

- ◆油性マジックで上書きをする。
- ◆パソコンなどで打ち出した背文字のラベルを貼る。

本の修理のポイント

- 修理にセロハンテープは使いません。劣化、変色して本を汚してしまいます。
- 早いうちに修理できるように、破損した本を入れる箱を用意するとよいでしょう。



学校司書から「心強い」と感謝されます。
自分自身も本がより好きになりました。
(小学校 ボランティアの声)

本の修理について詳しく知りたい方はP27参照📖

⑦読み聞かせをはじめの方へ

(1) 本の選び方

- ◆担任の先生や司書教諭、学校司書に随時相談するようにしましょう。
- ◆どこで、どのくらいの年齢の子どもたちを対象に、どのくらいの人數で、何分間読み聞かせを実施するのかを把握することが重要です。この状況によって選ぶ本が決まります。
- ◆大人が面白いと思う本に、子どもたちが興味を示すとは限りません。
- ◆小学校では絵本を用いることが一般的です。
- ◆ある程度の大きさがあり、一番後ろの人まで見える本を選びましょう。
- ◆授業の内容に関わるもの、時事に関わるもの、子どもたちの中で話題になっている本を選ぶのもよいでしょう。
- ◆読み聞かせを経験されている方に尋ねて参考にするのもよいでしょう。
- ◆ブックリストを活用しましょう。
 - ・県教育委員会では、「かながわ 子どものためのブックリスト」を作成しています。本を選ぶときの身近な手引きとして、ぜひご活用ください。

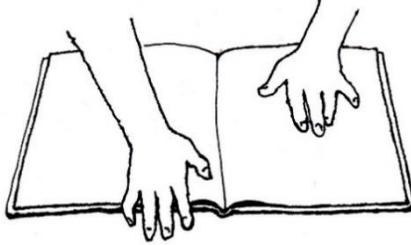
「かながわ 子どものためのブックリスト」は、県教育委員会ホームページの中の「かながわ読書のススメ」からダウンロードすることができます。

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/gt2/dokushonosusume.html>

*市町村立図書館でも、子どものためのブックリストを作成しているところがあります。図書館の職員に相談し、実際に本を手にとって読んでみることも有効です。

(2) 読み聞かせの事前準備

- ◆読む本を本番前にしっかり読み込んでおきましょう。
- ◆本のページが平らになるように開き癖をつけておきましょう。
 - ・本が膨らんでいる状態だと、子どもたちにとって絵が見えにくくなり、読み手にとって本が持ちにくくなります。



- ◆実際に本を持って、声を出して読む練習をしましょう。
 - ・字の見えにくい部分を確認できたり、横目を使って本を読むことの難しさが分かたりします。
 - ・ボランティア仲間や家族にみてもらうのも1つの方法です。
- ◆どのくらい時間がかかるか確認をしておきましょう。
 - ・読み聞かせ当日は時間が限られています。
- ◆本番緊張しそうな人は、あらかじめ台本を作りましょう。台本を作っておくと、安心して本番に臨むことができます。
- ◆読み聞かせ前に担任の先生や司書教諭、学校司書と打ち合わせをしましょう。

< 会場のセッティング >

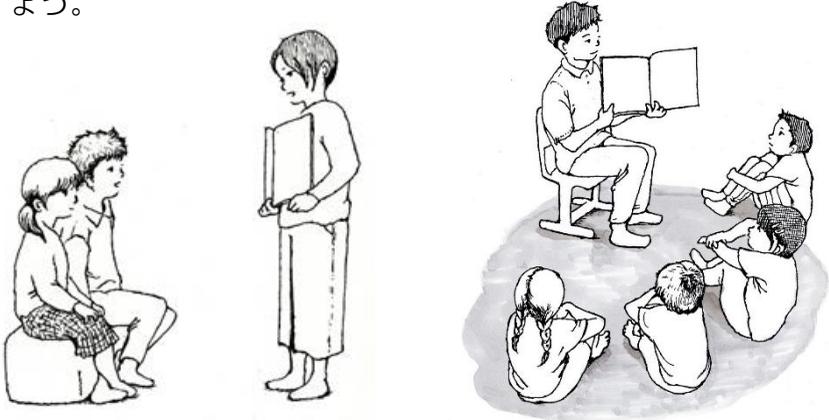
- ◆黒板の文字や掲示物等の子どもたちの気が散るものは視界から外しましょう。外す際は学校に確認しましょう。
- ◆日差しの反射に気をつけましょう。
- ◆外からの音が入らないようにしましょう。

— 特別支援学校の場合 —

特別支援学校では、担任や担当者から子どもたちの特性を事前に聞き取りをすることが特に重要です。

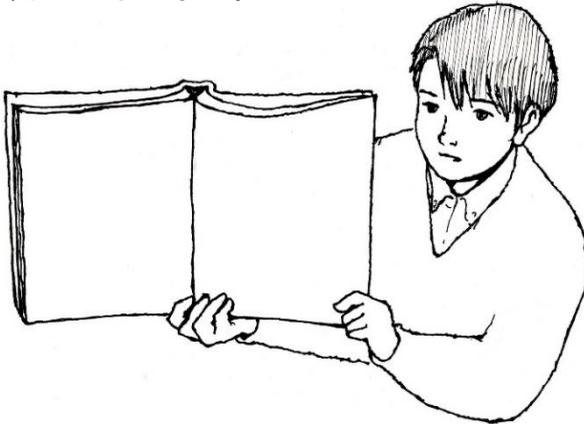
(3) 読み聞かせの仕方

- ◆本の位置は、子どもたちの目線より少し上になるようにしましょう。



<子どもが椅子に座る場合は立つ> <子どもが床に座る場合は椅子に座る>

- ◆どの子どもたちからも本が見えるように持ち、手で絵を隠さないよう気をつけましょう。



- ◆子どもたちと一緒に絵本を楽しむ気持ちで、心を込めて読みましょう。
- ◆子どもたちの表情や様子に気を配りながら読むことを心がけましょう。
- ◆肩の力を抜いて、よい姿勢で、部屋の隅にいる子どもたちにも聞こえる声の大きさと読みましょう。

- ◆子どもたちが聞き取りやすいように、また、話の内容を理解しやすいように、丁寧にはっきりと読みましょう。読む速さやページをめくるタイミングにも気をつけましょう。大げさに読んだり、極端な声色を使ったりする必要はありません。
- ◆絵本の絵も多くのことを語っています。表紙や裏表紙も見せてあげましょう。
- ◆読み聞かせの「はじめ」と「おわり」をしっかりと示しましょう。
- ◆読んでいる途中や読み終わったあとに、自分の考えを押しつけないように気をつけましょう。
- ◆読む前や読み終わったあとに、内容の説明や解釈を加えないようにしましょう。
- ◆子どもの特性に応じて、ボランティア同士の協力のもと、手話や外国語をそえるなどの工夫も効果的です。

子どもたちが読み聞かせを聞いてくれると嬉しいです。（小学校 ボランティアの声）



朝の読み聞かせは、子どもたちと直接接することができる貴重な時間です。学校司書と相談して選書をしますが、子どもたちの目が輝くと嬉しくなります。私は地域でまちづくりの活動をしていますが、地域で子どもたちに出会うと挨拶をしてくれます。（小学校 ボランティアの声）

司書教諭・学校司書やボランティア仲間と勉強会などを開き、よりよい読み聞かせのために常に学ぶ姿勢をもちましょう。

*読み聞かせの他にも、素話や朗読などの方法もあります。
子どもの発達の段階に応じて工夫をしましょう。

読み聞かせについて詳しく知りたい方はP27参照

⑧事例紹介

手を取り合って進める読書活動

【ボランティアの名称】読書推進ボランティアのつどい

【活動している学校名】大和市内の学校・地域

○団体の紹介

大和市では毎年秋に、市内の学校や地域で活動する読書推進ボランティアが交流する場をつくっています。事前アンケートの結果を紹介し、活動状況や課題について情報交換して解決に向けて話し合います。また、その場で作成したおすすめ絵本のPOPは、市立図書館で掲示し、5月の市民まつりでも掲示します。読書推進ボランティアが、互いにヒントを得て意欲を高める機会となっています。

○活動内容

- あいさつ（市立図書館長）
- 自己紹介、おすすめ絵本の紹介、POP作成
1人ずつおすすめ絵本を紹介し合い、POPを作成して模造紙に貼ります。
- 意見情報交換会
活動状況アンケートの結果を紹介し、活動状況と課題について、グループで情報交換します。出された悩みの解決に向けて熱心に協議しています。
- 市立図書館からの情報提供
読み聞かせボランティア養成講座（ブラッシュアップ編）、おはなし会などの図書館事業の案内をします。
- 新刊絵本・紙芝居展示

ボランティアの声

- 他団体との交流により、課題に対する対策方法を聞くことができました。そして、図書館スタッフより新たな対策方法を教えていただけて勉強になりました。
- 紹介された絵本はどれも興味深く、おはなし会で読み聞かせしたいと思いました。選書にいつも悩むのでありがたいです。

本や図書室との出会いを大切に

【ボランティアの名称】①図書ボランティア ②にのみやおはなし会
 【活動している学校名】二宮町立一色小学校

○団体の紹介

- ①1994年、当時の二宮町社会教育課主催のボランティア養成講座を経て学校図書ボランティアグループが誕生し、町内3小学校で活動を開始、子どもや先生方が使いやすい学校図書館をめざして2019年からは町内小中5校に分かれての活動になりました。現在、一色小学校では、学校図書館指導員とともに、子どもたちであふれるような学校図書館の環境づくりのお手伝いを目的に、6名で活動中です。
- ②1991年に二宮町図書館でのおはなし会ボランティア募集の呼びかけで発足、その後独立しました。メンバーは町内外合わせて約30名で、二宮町図書館や町内の子育てサロン、小中学校でおはなし会等を行っています。

○活動内容

- ①毎月、隔週の木曜日の午前中に集まり、図書室の季節の飾り作りや飾り付けを行っています。毎年11月の読書月間では、図書委員会が行う催し物のお手伝いもしています。
- ②小学校では年に5～9回、朝の時間に1～6年生の各教室で、おはなし(素話)、絵本、紙芝居などの読み聞かせを行っています。また、子どもたちに楽しんでもらうために、毎月、自主勉強会も行っています。

ボランティアの声

- ・子どもたちと一緒に大きな模造紙に折り紙でクリスマスの作品を作った時や、飾ってある季節の飾りを見た児童から作り方を教えてほしいと言われたり、読書月間でのプレゼントを喜んでもらったりした時、やっていてよかったと感じます。
- ・小学校でおはなし会をしているので、中学生になっても楽しんで聞いてくれて、読み手の想いが届いていることを実感します。
- ・学生や社会人になった卒業生から町で声をかけられ、大人になっても覚えていてくれてうれしかったです。

学校図書館の放課後開放

【ボランティアの名称】図書ボランティア

【活動している学校名】鎌倉市立深沢中学校

○団体の紹介

鎌倉市立深沢中学校の図書ボランティアは保護者の「放課後、生徒たちが気軽に使える場所にしてほしい」という声から放課後開放の検討が始まり、2022年に設立されました。メンバーはPTAの保護者だけではなく、卒業生の保護者も継続して地域の方々として参加し、生徒のために図書の貸し出し時間を拡大するとともに、学習スペースや安心できる居場所としての場づくりをおこなっています。

○活動内容

- ・週2回（火・木）の放課後に、学校図書館の開放をおこなっています。また、週1回（金）は読書活動推進員（学校司書）が開放をおこなっており、週3回の放課後開放をおこなっています。放課後の他にも、テスト前（2～3日）や面談週間（待機場所として）、夏休み期間（7月：約1週間）も開放しています。
- ・ボランティア2名以上の参加を原則とし、非常時でも対応できる体制づくりをしています。
- ・年1回図書ボラ交流会の開催をしています。また、読書活動推進員が県版を参考に作成した深沢中学校版「学校図書館ボランティアハンドブック」を活用し、役割や心構えの情報共有をしています。
- ・業務リスト（日誌）にて、業務内容をわかりやすくし、困りやその日の様子を共有し、参加しやすい体制づくりがされています。

ボランティアの声

- ・保護者の交流、情報交換の場にもなっており、無理のない範囲で楽しく参加でき、何より生徒が「放課後、図書館が利用できる」と認識してくれるようになったのを実感しています。

それぞれの強みを結集して織りなす環境づくり

【ボランティアの名称】図書ボラ

【活動している学校名】南足柄市立南足柄中学校

○団体の紹介

生徒たちが本に興味をもち、親しむことができる環境づくりを目的に、多くのボランティアさんが関わって図書ボラの活動が行われています。図書ボラは、市で配置している図書コーディネーターが中心となって、学校の図書ボランティア、市立図書館の読み聞かせボランティア、地域で読み聞かせをされている団体さんなどと協力しているコンソーシアム的な組織です。多くの方がアイデアを出し合い、より良い学校図書室の環境整備等を進めています。

○活動内容

- 図書室の季節に合わせた掲示物、オーナメント作りを行っています。クリスマスのオーナメント作りでは、昼休みに希望する生徒も製作に参加し、図書ボラが生徒に製作方法を教えながら完成させます。
- 朝読書の時間に、全学年、年2回、同じ日に、すべての教室で読み聞かせを行っています。図書ボラが、選書した絵本（命に関するものや戦争に関するものなど）を読みます。生徒の中には、読み聞かせの本に興味を持ち、図書室に再度読みに来る生徒もいます。
- 生徒が文化祭で行うビブリオバトルへの支援や景品ブックカバーの製作を行っています。
- 図書コーディネーター、図書ボランティア、スクールサポートスタッフとの月1回の会合を行い、様々なアイデアを出し合っています。

ボランティアの声

- 生徒に読書の楽しさを伝えたいと思っています。読み聞かせでは、中学生も集中して聞いてくれます。だからこそ、より良い方法を検討するために、読み聞かせ後、メンバーと振り返りを行います。本を通して、生徒と関われることも喜びです。

ともに生きよう、ひらつか

- 【ボランティアの名称】 平塚点訳赤十字奉仕団
(リーディングサービス事業部)
- 【活動している学校名】 県立平塚盲学校

○団体の紹介

盲学校の文化祭に招待されたことをきっかけに、1963年に平塚点訳奉仕団が発足、翌1964年には「目の不自由な子に本を読んであげよう」とリーディングサービスを始めました。

当時、生徒のほとんどが寄宿舎に入っており、帰省できない生徒も多くいたことから、家庭や学校で担いきれない面を補う必要があったことが発足のきっかけで、読書の他に戸外での遊びや社会見学等も行っていました。

後に日赤奉仕団に加盟し、平塚点訳赤十字奉仕団と改めました。

現在のリーディングサービス事業部は4名で、視覚障がい者が自立できる社会の構築をめざして様々な活動に取り組んでいます。

○活動内容

盲学校寄宿舎生に、毎月2回、18時から19時まで、対面朗読を行っています。寄宿舎生の好きな本や教科書などを読んでいます。

ボランティアの声

月に2回、各1時間の本読みですが、私にとって充実した時間で、この時を楽しみにしています。本読みが終わると担当している生徒は、次はいつかと確認をします。その口調から、生徒たちもこの本読みをととても楽しみにしているということがわかります。リーディングサービスは心と心のふれあいから始まり、読書の楽しみを贈る活動です。視覚障がい者の生活と自立の道に、もっと光が当たりますようにという願いとともに、62年を経て今日に続いています。

高等学校ではこんな活動もしています

＜ 県立田奈高等学校「ぴっかりカフェ」 ＞

校内にある図書館「ぴっかり図書館」を活用し、在校生や卒業生の居場所づくりとして「ぴっかりカフェ」という取組を行っています。「ぴっかり」の名称は、「日の当たる、明るくて温かい場所」ということで名付けられました。

コーヒーやジュースを無料で飲みながら、カフェのような雰囲気生徒が気軽に利用できる居場所として、また、若者を支援する専門家とボランティアがスタッフとなり、何気ない会話や生徒の悩みを聞いてくれる相談窓口として機能することを目的としています。年齢の近い大学生ボランティアや市民ボランティアの方たちに相談し、よいアドバイスをもらうことも。

生徒たちには大盛況で、放課後になると多くの生徒が集まり、読書はもちろん、ドリンクを飲みながら談笑したり、楽器を演奏して楽しんだり、サロンとしての機能を果たしています。また、地域のボランティアに協力してもらいながら、着物の着付け体験や料理教室も定期的を開催しています。



※この「ぴっかりカフェ」は、「NPO法人パノラマ」が学校連携事業として行っています。



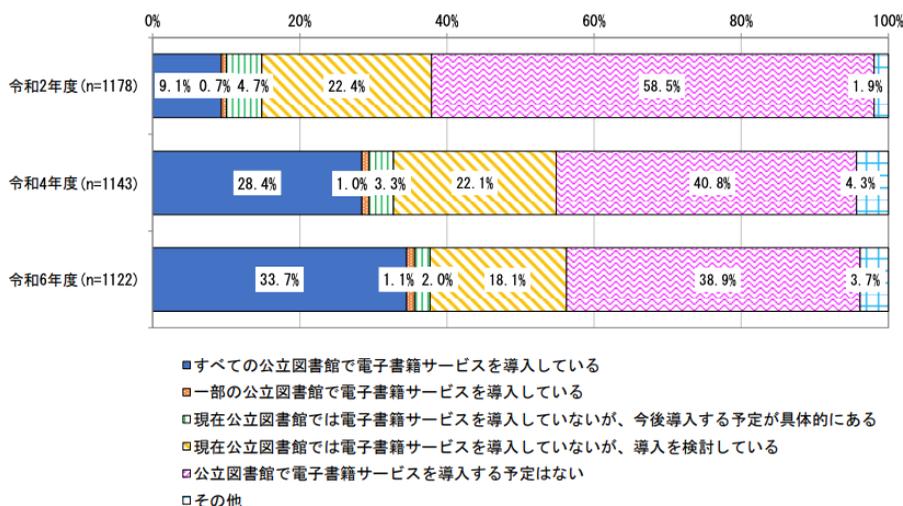
多くのボランティアに支えてもらっています。生徒の皆さんが、まずは図書館に来てくれることがうれしいです。「本がある場所」で過ごすことで、読書に興味をもつきっかけになればと思っています。（学校司書の声）

【子ども読書活動をめぐる動き①】



電子書籍の普及と活用

地域の公立図書館では、手持ちのタブレット端末やパソコンで電子書籍の閲覧・貸出が可能な「電子書籍サービス」が急速に普及しています。文部科学省が2024年度に調査※したところ、すでに全国の3割超の公立図書館が「電子書籍サービス」を導入していることがわかりました（図）。導入を「予定している」と「検討している」公立図書館もあわせて2割にのぼります。2020年度は1割に満たない導入率でしたので、急速に普及が進んでいることがわかります。



※文部科学省「令和6年度子供の読書活動の推進等に関する調査研究
（電子図書館・電子書籍と子供の読書活動推進に関する実態調査）」

学校でも電子書籍は普及し始めています。同じ調査によると、2024年度時点で、全国の1割超の公立小学校、公立中学校が電子書籍を利用しています（表）。電子書籍の利用場面は、朝の一斉読

書や、国語や総合的な学習の時間などの授業が多いようです。背景には、子どもたち1人1人に1台ずつタブレット端末を配布して授業等で活用する「GIGA スクール構想」の進展があります。今後も、電子書籍を利用できるようにする学校は増えるでしょう。

教育機関	基本情報：学校数	導入校数	導入率
小学校	15,093	1,882	12.5%
中学校	7,377	859	11.6%
高等学校	3,461	186	5.4%
特別支援学校	1,014	51	5.0%
義務教育学校	191	24	12.6%
中等教育学校	42	2	4.8%

※文部科学省「令和6年度子供の読書活動の推進等に関する調査研究
（電子図書館・電子書籍と子供の読書活動推進に関する実態調査）」

これらの動きは、紙の本や学校図書館の存在意義の低下を意味するわけではありませんので、安心してください。文部科学省では、紙と電子のベストミックス（両者の効果的な組み合わせ）を推奨しています。したがって、これからも、紙の本や学校図書館の整備・



充実が大切です。発達段階をふまえれば、特に小学校や特別支援学校での読み聞かせの重要性はまったく変わりません。学校図書館に関わるボランティアの存在とその活動は、すべての子どもたちの読書と学びの充実にとって、今後も欠かすことができないのです。

（公益社団法人全国学校図書館協議会理事長 野口武悟）

【子ども読書活動をめぐる動き②】

広がる「りんごの棚」づくり

2019年6月の「読書バリアフリー法」（視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律）制定以降、特別支援学校はもちろんこと、小学校・中学校・高等学校の学校図書館でも読書バリアフリーの取り組みが進みつつあります。その1つが「りんごの棚」づくりです。

「りんごの棚」は、子どもたちの多様な特性や読書ニーズに応えるバリアフリー図書や読書補助具などを集めた棚やコーナーのことです。すべての子どもたちや先生たちがさまざまなバリアフリー図書の存在を知る機会にもなります。30年ほど前にスウェーデンから始まった取り組みです。

文部科学省が2016年11月に定めた「学校図書館ガイドライン」には、次の記述があります。「発達障害を含む障害のある児童生徒や日本語能力に応じた支援を必要とする児童生徒の自立や社会参画に向けた主体的な取組を支援する観点から、児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた様々な形態の図書館資料を充実することが望ましい。例えば、点字図書、音声図書、拡大文字図書、ＬＬブック、マルチメディアデジター図書、外国語による図書、読書補助具、拡大読書器、電子図書等の整備も有効である」。こうしたバリアフリー図書や読書補助具を集めたのが「りんごの棚」です。

司書教諭や学校司書、ボランティアが「りんごの棚」づくりに取り組む学校が多いですが、図書委員の子どもたちが司書教諭や学校司書、ボランティアの助けを借りながら主体的に「りんごの棚」づくりに取り組むケースもあります。バリアフリー図書を所蔵する公立図書館との連携も欠かせません。「誰ひとり取り残さない」読書環境の実現に向けて、「りんごの棚」づくりのさらなる広がりを期待したいと思います。

（公益社団法人全国学校図書館協議会理事長 野口武悟）

⑩ 語句の解説

ページ	語句	解説
4	情報活用能力	自ら必要な情報を適切に収集・整理・分析・発信し、課題を解決する資質・能力（プログラミング的思考や情報モラルを含む）
5	司書教諭	学校図書館の経営及び指導面を担当する教員
	学校司書	学校図書館サービスと技術的な面を担当する職員
7	素話（すばなし）	話のすじを覚えて語る手法（「お話」「語り」「ストーリーテリング」ともいう）
	ブックトーク	あるテーマに沿って、複数の本を紹介すること
8	ペープサート	人や動物などを紙に描いて切り抜いたものを棒に付け、背景の前で動かして演じる人形劇のこと
	パネルシアター	布を貼ったボードに、不織布で作成した絵を貼ったり外したり位置を変えたりしながら物語を演じる人形劇のこと
10	図書館システム	学校図書館の様々な作業（蔵書の管理・貸出し・返却・検索など）を図書館管理ソフトを使用してコンピュータで行う仕組み

①参考資料



学校図書館ボランティアの活動について、より理解を深めたい方は、以下の書籍や動画、ホームページが参考になります。

< P 6の著作権について >

- ☛ 『みんなで学ぼう学校教育と著作権 増補改訂版』
森田盛行、全国学校図書館協議会（2024）

< P 11～12の本の修理について >

- ☛ 『図書館のための簡単な本の修理』
高岡容子、少年写真新聞社（2019）

- ☛ 『大切な本を修理しよう』
さくら動画配信（佐倉市公式チャンネル）
<https://www.youtube.com/watch?v=q5BzWytQH7U>



< P 13～16の読み聞かせについて >

- ☛ 『読み聞かせわくわくハンドブック～家庭から学校まで～』
代田知子、一声社（2001）

- ☛ 『読み聞かせボランティアスキルアップ手法ビデオ』
東京都公式動画チャンネル
https://tokyodouga.metro.tokyo.lg.jp/atybdub_wxg.html



- ☛ 横浜市ホームページ 『ボランティア活動お役立ち情報』
本の修理や読み聞かせの方法が具体的に紹介されています。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kyodo-manabi/library/fororganization/forgroup/oyakudachi/volunteer.html>



※記載のURL、二次元コードからアクセスできる動画やホームページについては、作成元の都合や諸事情により、予告なく視聴できなくなる可能性があります。あらかじめ御了承ください。

MEMO

このハンドブックは、県教育委員会のホームページの中の「かながわ読書のススメ」からダウンロードすることができます。商業用を除き、自由にご活用ください。

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/gt2/dokushonosusume.html>

<監修>

- ・公益社団法人 全国学校図書館協議会（全国SLA）

<イラスト>

- ・神奈川県立図書館 伊津美 泉
- ・高校教育課 宮田 一宏



学校図書館ボランティアハンドブック ～ 子どもと本の架け橋に ～
令和8年3月

 神奈川県

神奈川県教育委員会教育局生涯学習部生涯学習課
横浜市中区日本大通1 〒231-8588
電話 (045) 210-8347